

# 令和3年度 古賀市立古賀西小学校 学校経営要綱

古賀市立古賀西小学校 校長 板山 和枝

## 1 学校経営の基本構想

### (1) 学校経営の基盤

#### ① 公教育としての基盤に立つ教育

- 日本国憲法、教育基本法、学校教育法をはじめとする関係法規並びに教育課程の基準である学習指導要領に従い、公教育を行う。
- 福岡県や古賀市の教育関係法令及び教育施策に基づいて教育を行う。

#### ② 現代社会の要請に応える学校

- 豊かな未来を創り出し、持続可能な社会の作り手となることが期待される児童に生きる力を育むことをめざし、知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等の資質や能力を伸ばす教育を行う。
- 生涯学習の基盤を培う観点から、学ぶ意欲と主体的に対応できる力が身に付く教育を行う。
- 人権尊重の精神を基盤に、共生の視点に立った教育を推進する。

#### ③ 児童・保護者・地域の実態に即し、願いに応える学校

- 社会に開かれた教育課程を編成し、カリキュラム・マネジメントの充実を図る教育を行う。
- 地域の自然環境・文化環境・人的環境を生かした教育を行う。
- 保護者や校区コミュニティと連携したコミュニティ・スクールを推進する。

### (2) 学校の教育目標

#### 地域を愛し、「こ・が・に・し」力を身に付けた子どもの育成

##### ■「地域を愛し」

古賀西小学校区の「ひと（自分・家族・友達・先生・地域）・こと（学校行事・地域行事）・もの（校舎・校庭・地域環境）」に尊敬と愛着を感じ、古賀西小学校区の児童であることに誇りと自信をもち、自尊感情が高まった子ども

##### ■「こ・が・に・し」力を身に付けた子どもの育成

##### ○「こ」「心豊かな子ども」

よりよく生きていこうとする心情や豊かな人権感覚を持ち、生命の大切さや自他の存在の大切さがわかり、共に生きていこう、高め合っていこうとする思いやりの心をもち、自他を大切にしようとする子ども

##### ○「が」「学習に励む子ども」

学校や家庭で、課題解決に向けわかるまで努力し、自分の考えを分かりやすく伝えようと表現したり互いの考えの違いやよさを認め合ったりできる子ども

##### ○「に」「忍耐強い子ども」

学習や生活の場において、困難な事に対しても、あきらめずに最後まで責任をもって努力し、自分を律し伸ばしていこうとする子ども

##### ○「し」「心身ともに健康な子ども」

基本的な生活習慣を身に付け、食の大切さを理解し、生命の基本である健康に留意し、健康づくり、体づくりについて積極的に取り組もうとする子ども

### (3) 具体目標

#### ① 目指す学校像

##### ○ 明るい学校にします。

- ・立ち止まっでの挨拶があふれる学校
- ・美しい歌声が響く学校
- ・教職員が働きたいと思える学校
- ・掃除が行き届く学校
- ・いじめや不登校の早期発見・対応を行い、明るく生活できる学校

##### ○ 学び合う学校にします。

- ・学ぶ意欲にあふれた学校
- ・しっかりと話が聴け、自分の考えを表現し合う学校
- ・対話を通して考えを深め合う学校

##### ○ 地域に根ざす学校にします。

- ・地域の「ひと・もの・こと」を活かした教育活動に取り組む学校
- ・西小校区コミュニティや保護者等と連携しながら、教育活動に取り組む学校

#### ② 目指す教師像

##### ○ 使命感溢れ、率先垂範する教師を目指します。

(古賀市立古賀西小学校の教師としての使命感、責任感をもった教師)

##### ○ 児童愛に溢れる教師を目指します。

(一人ひとりの児童の実態に即したきめ細やかな愛情をもった教師)

##### ○ 自己研鑽に溢れる教師を目指します。

(教師生活の課題解決に努める教師、実践力を高める教師)

##### ○ 協働心に溢れる教師を目指します。

(積極的な職員室文化、子どもの成長を語り合い、お互いを高め合う同僚性)

##### ○ 保護者、地域に信頼される教師を目指します。

### (4) 教育課題と経営課題

#### ① 教育課題

- 豊かな人間性の育成
  - ・豊かな人権感覚の育成
  - ・規範意識・道徳的实践力と自尊感情の向上
  - ・共に伸びようとする集団の力の向上
- 学びに向かう力、知識の習得、表現力の育成
  - ・学ぶ意欲と対話的学び力の向上
  - ・社会的実践力の向上
- 学力低位層の一層の学力向上
  - ・学びの基礎力の向上



#### ② 経営課題

- チーム推進力の向上
- 実践的指導力の向上
- 特別支援教育の充実と校内連携の強化
- 感染リスク低減を図りながらの地域の「もの・ひと・こと」の活用と充実
- 不祥事を生まない風通しのよい職場環境 (人間関係)



## 2 本年度の重点

### (1) 本年度の重点目標

自ら気づき考え、行動する子どもの育成（考動<sup>こうどう</sup>）

### (2) 重点目標指標

◇全国学力・学習状況調査（4月実施⇒未定）

全国平均値より 国語+2P、算数+2P

◇古賀市標準調査（12月実施） 評定1児童経年比較-10%

◇社会的実践力アンケート全項目（5月、12月実施）85ポイント以上（12月）



◇西っ子スタンダード全項目（6月、12月実施）85ポイント以上（12月）

◇授業力アンケート（6月、12月実施）85ポイント以上（12月）

### (3) 本年度目指す子どもの姿

西っ子スタンダードを身に付けた子ども

#### 【西っ子スタンダード】

1	立ち止まって名前を呼んであいさつができる。	
2	時間いっぱいもくもく掃除ができる。	
3	ふわふわ言葉を使うことができる。	
4	こしぼねを立てて学習を続けることができる。	
5	話をしている人に身体を向けて聴くことができる。	
6	自分の考えをもって、進んで発表できる。	
7	ものぞろえができる。（宿題・荷物・学習用具・くつ）	
8	美しい声で歌うことができる。	
9	晴れた日は、外で元気よく遊ぶことができる。	
10	給食をがんばって食べるすることができる。	

### (4) 本年度目指す教師像

- 「教えて・鍛えて・任せて・ほめる」教師
  - ・子どもに愛情をもち、めりはりをもって指導する教師
  - ・子どものよさや可能性を伸ばそうとする教師
- チーム力を高める教師
  - ・子どもの成長を語り合い、互いを高め合う教師
  - ・実践力を高め、学年チーム、プロジェクトチーム、学校全体チームを意識して協働で教育活動にあたる教師
- 働き方改革を意識し、めりはりをもって、仕事に取り組む教師

(5) 重点目標達成のための方策

I 教育活動の改善・充実を図ります。

- 社会的実践力を育成する主題研究を進め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、総合学力の向上に努めます。
- 日常の学習指導の充実を図ります。そのため、「古賀西小学校学びのきほん」（腰骨指導含む）の定着100%を目指します。
- 授業づくりの原則として、「目的をもった対話活動の日常化」と「児童が自らまとめ、振り返るための時間の確保と充実」を実施します。
- 算数科の少人数指導体制を確立し、個に応じた指導を展開するとともに朝活動（週末課題・学級タイム・対話活動等）を全職員の協働体制で推進します。
- 2学期制のよさを生かした習熟度による年3回の個に応じた補充学習（チャレンジ学習）を実施します。
- 活用問題に特化した週末課題を実施し、家庭学習の習慣化と充実を図ります。中学校の定期考査期間と連動した家庭学習強化期間に取り組みます。
- 「1人100冊」運動・ブックマスター運動を推進し、図書館教育を充実させます。調べ学習の充実に努めます。
- 地域の「ひと・もの・こと」を生かした体験を伴う生活科・総合的な学習を推進します。

※ 総合的な学習の時間のテーマを固定化する。

6年：中村哲物語（絵本） 5年：松原清掃を核とする地域環境教育

4年：駅前商店街の活性化 3年：ひまわりの花の取組を通じた人権教育

- 道徳科の充実を図り、教科・領域や体験学習と関連させ、「教科書」を中心としながらも「いのちのノート」「あおぞら」「かがやき」を効果的に活用しながら、道徳性を養っていきます。
- 丁寧な言葉があふれる学級・学校をめざし、お互いを尊重し合う心を育てます。
- 学級活動(1)を年間15時間以上確実に実施し、自主的・自治的な力を高めます。
- 「人権学習参観日」を通して地域・家庭と連携した人権尊重の校区づくりを進めます。
- 5月23日を「西っ子のいのちの日」と定め、命あることの素晴らしさを学ぶ機会とします。
- いじめや不登校、気になる児童への指導・支援は、家庭と連携して進めます。必要に応じて関係機関との連携を図り、組織的に対応します。
- I.C.T教育の推進
  - ・ 1人1台のパソコン端末と電子黒板を活用した授業改善
- 特別な支援を必要とする児童への特別支援教育を充実します。また、特別支援学級と通常学級の連携を強化します。
- 縦割り活動を推進（縦割り掃除、縦割り弁当給食、縦割り遊び、落ち葉拾い等）し、リーダー性を養うとともに、思いやりの心を育みます。
  - ・ 黙働掃除・縦割り掃除を推進し、清掃指導を通して心を鍛え、労働観を育てます（もくもく掃除縦割り月間の取組等）。特に、トイレ掃除の徹底を図ります。
- 毎月1日を安全点検・環境更新の日とし、温かい環境に包まれた教育環境を整備するとともに、教室・廊下・昇降口等の環境の美化（ものぞろえ）に努め、こころも整えます。
- 特色ある学校行事（浜の運動会、砂の芸術大会、西っ子まつり等）を充実させ、郷土愛や仲間意識を向上させます。

- 古賀市加配の人的配置を有効に活用します。

## Ⅱ 学年間における教師の組織的・協働的な教育活動を推進します。

- 学年がチームとなり、協働での教育活動を推進します。
  - ・ 学年研修会の充実、学年でそろえることの徹底、学年での役割分担を行います。
  - ・ 特別支援教育の協働的な推進を行います。
  - ・ 教科担当制や交換授業を積極的に推進します。
- 学年研修会を計画的に進め、授業づくり・集団づくりの向上を進めます。週3日の5時間授業を活かし、意図的・計画的な授業設計、学年・学級経営を進めます。
- 拡大学年研修会を実施します。
  - ・ 特学担任、指導方法改善教員等を招いて
  - ・ 近接学年での研修会

## Ⅲ P T C Aによるコミュニティ・スクールの推進をします

- 地域と共にある学校として西校区コミュニティ運営協議会を中心に地域住民、保護者と一緒に協働で児童の豊かな成長を支えます。
- 全体行事として、浜の運動会、西っ子まつりをコミュニティと共催で感染リスクを減らしながら実施します。
- コミュニティ行事であるハマボウまつり、通学合宿、春夏秋の陣には、児童が積極的に参加できる支援をします。
- 授業やクラブ活動などコミュニティに積極的にゲストティチャーを依頼し、授業の充実を図ります。

## Ⅳ 教師の実践力の向上を図る職員研修を推進します。

- 教育課題、職員の職能、ニーズに応じた一般研修を充実させます。
  - ・ 人権教育、特別支援教育、命を守る研修を進めます。
  - ・ 学級集団づくりについての研修を進めます。
  - ・ 教科・領域の授業改善および主体的・対話的で深い学びにつながる研修を進めます。
- 自主研修を推進します。
  - ・ 糟屋区教科等研への加入を促進します。
  - ・ 他校の研究発表会に積極的に参加し、研鑽を図ります。
  - ・ キャリアアップ講座への参加を推進します。
  - ・ 糟屋区教育論文への応募を奨励します。

## Ⅴ P D C Aサイクルが機能する校務運営組織の活性化を図ります。

- 学校改善につながる自己評価に基づいた校務運営の改善を進めます。
- 毎月学年チーム推進会議を実施し、学校・学年の教育課題の改善を進めます。
- 校務分掌の教育活動後は、すぐに改善案を考え、次年度の計画を立てる Do-CAP 型を行います。
- 個のニーズに応じた校内委員会、ケース会議を適宜開催し、いじめや不登校等の解決に努めます。

## Ⅵ 開かれた学校を推進し、学校サポーターに支援される学校をつくります。

- 学校運営協議会を生かした、地域・保護者に信頼される学校改善を推進します。
- ゲストティチャーや学校ボランティア（読み聞かせ、丸付け）を募ったり、図書館を開放した

りしながら、家庭・地域と連携した教育活動を進めます。

- 古賀中学校とのより強固な連携を行い、義務教育9年間を見通した教育活動を推進します。
- 挨拶運動、家読、家庭学習強化週間、親子ふれあい運動、弁当の日などをおして、家庭と連携した生活習慣・学習習慣の確立に努めます。
- 学習支援アシスタントや丸付けボランティアを広く募り、子どもたちの学習支援を促します。
- 学校からの通信を月に1回発行、ホームページを週1回以上更新し、学校の教育活動の様子を発信します。

#### **VII 校務運営の効率化と職場コンプライアンスの推進を図ります。**

- 教職員の自己評価表を活用した人材育成を図ります。
- ワーク・ライフバランスのとれた職場環境を推進し、働き方改善を推進します。
- 安全・安心の学校をつくるため、安全点検を確実に実施します。
- 震災・津波に備え、危機管理意識を高め、危機管理マニュアルに即して防災訓練等を計画的に実施するとともに、アレルギー対応やAEDなど命を守る研修を行い児童の安全確保に努めます。
- 週時程を弾力的に運用し、学期末の学級事務時間の確保を実施します。
- 週3日は、全学年5時間授業とし、学級事務の時間を確保します。
- 危機管理推進計画を策定し、毎月計画的に職員のコンプライアンス意識の徹底を図ります。
- 毎月1回衛生委員会を開催し、教育活動における感染防止対策の検討を行います。